

神田日勝 年譜

- 1937年 12月8日、東京市板橋区練馬（現東京都練馬区練馬）に父神田要一、母ハナの次男として生まれる。
- 1945年 戦火を逃れ、一家で「拓北農兵隊」に加わり渡道、8月14日に鹿追村（現鹿追町）に到着。翌日終戦を迎える。約3ヶ月後に鹿追村クテクウシ区画外（現鹿追町笹川）の開拓用地に入植。笹川小学校2年に編入する。
- 1950年 鹿追中学校に入学。美術部の創部に参加。
- 1952年 帯広柏葉高校に通う兄・一明の影響で油絵を始める。
- 1953年 鹿追中学校卒業。家業の農業を継ぐ。
- 1956年 地元帯広の第31回平原社展に《瘦馬》を出品し、朝日奨励賞を受賞。
- 1957年 第32回平原社展に《馬》を出品、同展最高賞の平原社賞受賞。
- 1960年 第15回全道美術協会展（以下、全道展）で《家》が初入選。
- 1961年 第16回全道展で《ゴミ箱》が北海道知事賞受賞。同時に兄・一明が北海道教育長賞、その妻の比呂子が同展会友推挙となり、注目を浴びる。
- 1962年 高野ミサ子と結婚。第17回全道展で《人》が入選。
- 1964年 長男哲哉誕生。第19回全道展に《飯場の風景》を出品。第32回独立美術協会展（以下、独立展）で《一人》が初出品初入選。



《飯場の風景》
1964年 油彩、ベニヤ板

手足が大きい労働者風の男たちがストーブを囲み休息を取っている。刻み込む筆触で人物も背景も一定の調子で描きあげられている。

- 1965年 NHK帯広放送局制作の農村番組で紹介される。この頃より帯広画壇との交流が深まる。第33回独立展で《馬》と《死馬》が入選、新人室陳列。
- 1966年 この頃からモノクローム調の画面に色彩があらわれ始める。第21回全道展で《静物》が会友賞を受賞。同展会員に推挙される。



《静物》1966年 油彩、ベニヤ板
筵の上に野菜や果物などの豊富な食糧があふれている。個々の食材は緻密で写実的だが、バケツや缶容器は平面性が強調されている。

- 1967年 第35回独立展に《画室E》が入選、新人室陳列。4年連続の入選で会友となる。
- 1968年 長女絵里子誕生。自宅に5坪のアトリエを増築。この年、帯広信用金庫からカレンダーの原画制作を10年契約で依頼され《扇ヶ原展望》を描く。

神田日勝記念美術館 イベントスケジュール 2026.4 - 2027.3



神田日勝《馬》1965年 神田日勝記念美術館蔵

2026年4月1日(水)
~2027年3月31日(水)
当館は施設改修工事のため休館します

Kanda Nissho
Memorial Museum
of Art



開館時間
10:00~17:00
(最終入場 16:30)

アクセス

- 1.帯広市内から
バス
JR帯広駅バスターミナル④番乗り場から北海道拓殖バス51・52・53系統「鹿追・新得・然別湖線」乗車、「神田日勝記念美術館前」下車(所要時間1時間)
自家用車
帯広市内から約45分(約30km)
帯広空港からは芽室ICまで高速利用で約1時間(約55km)
- 2.札幌市内から
電車&バス
JR札幌駅から帯広行特急「とがち」もしくは釧路行特急「おおぞら」に乗車、①JR新得駅または②JR帯広駅で下車
●JR新得駅まで所要時間約2時間。新得駅から北海道拓殖バス53系統「鹿追・新得・然別湖線」に乗車、「鹿追役場前」下車(約30分)。バス停から徒歩5分。
●JR帯広駅まで所要時間約2時間30分
自家用車
札幌市内から十勝清水ICまで高速利用で所要時間約3時間(約180km)
- 3.東京方面から
飛行機
羽田空港から帯広空港まで約1時間30分、空港連絡バスでJR帯広駅まで約40分
*新千歳空港利用の場合はJR南千歳駅で帯広釧路行特急に乗り換え

*駐車場は「道の駅しかおい」駐車場をご利用ください

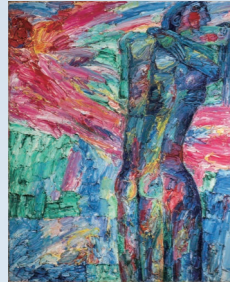
神田日勝記念美術館
KANDA NISSHO MEMORIAL MUSEUM of ART

最新情報を SNSで発信中
@kandanissho @kandanissho
「神田日勝記念美術館」で検索

〒081-0292 北海道河東郡鹿追町東町3丁目2
3-2, Higashimachi, Shikaoui, Kato, Hokkaido, Japan 081-0292
tel.0156-66-1555 / fax.0156-67-7855
https://kandanissho.com

《人間A》1969年 油彩、ベニヤ板

抱擁する男女の姿が描かれている。ナイフが勢よく走る描法は、男女の迸る感情、性愛や官能の様態を表すかのようなのである。



- 1970年 体調不良の兆しが出始める中、25周年記念全道展帯広巡回展準備に奔走する。8月、新得町の病院に入院。一時帰宅許可があり自宅へ戻るも、その後容態が悪化し、清水赤十字病院に転院。8月25日、腎盂炎による敗血症で逝去(享年32歳)。10月、第38回独立展に《室内風景》が出品され、宗左近や中野中、和多田進らの眼に留まる。



《馬(絶筆・未完)》
1970年 油彩、鉛筆、ベニヤ板

日勝の没年に描かれた未完にして絶筆の作品。途中で筆が止まり、背景は手付かずでベニヤ板の地が残されている。

- 1971年 東京の柳屋画廊で「神田日勝遺作展」開催。宗左近の論評「北辺の農民画家・神田日勝」が『時代』創刊号に掲載、画業評価の端緒となる。

- 1972年 鹿追町社会福祉会館で「神田日勝遺作展」開催。

- 1977年 鹿追の文芸サークル「らんぶの会」が、聞き書きや既発表論考を収めた評伝『神田日勝』を刊行。地元での顕彰活動の端緒となる。

- 1993年 6月17日、鹿追町に神田日勝記念館開館(2006年に神田日勝記念美術館に改称)。

- 2020年 没後50年を記念し、東京ステーションギャラリーで「神田日勝 大地への筆触」展開催、同展は神田日勝記念美術館、北海道立近代美術館に巡回。

- 2023年 開館30周年を迎える。

ご利用案内

- 貸出用車椅子、貸出用ベビーカーを備えています。
- 館内には多目的トイレを設置しています。
- お荷物はコインロッカーをご利用ください(要100円硬貨、利用後返却)。
- コインロッカーに入らないスーツケース等は受付でお預かりします。
- 館内は盲導犬・聴導犬・介助犬の同伴入場が可能です。
- 車椅子用の駐車場は隣接する鹿追町民ホールにあります。
- 館内には授乳室・託児所等はありません。町民ホールの授乳室をご利用ください。また、おむつ交換台が女性用お手洗い内にございます。

